

## 平成 29 年度第 3 回 IR 実務担当者連絡会アンケート結果

「平成 29 年度 3 回 IR 実務担当者連絡会」は、試験的にパラレルセッション構成とし、A（実践的）、B（概念的）の 2 セッションに分けて開催した。セッション A（実践的）は参加者 34 名のうちスタッフ 4 名を除いた 27 名からアンケートの回答があった。約 9 割が概ね満足か満足と回答した。このセッションで報告された、共通分析セットや学生調査の話題に対する感想が多く見られた。

セッション B（概念的）は、参加者 27 名のうちスタッフ 5 名を除いた 19 名からアンケートの回答があった。95%が概ね満足か満足と回答した。経営学の視点に基づく報告に対して複数の意見が寄せられた。概念的と便宜上名付けたが、実践的な知見も得られる報告内容となっていたようである。

今後取り扱ってほしいテーマについては、セッションにかかわらず、教学、研究、経営、財務など話題別の IR 事例、内部質保証について、教員業績評価、目標計画と評価などが見られた。

今回の試みであるパラレルセッション構成については、賛否両意見が寄せられた。発表申込のあった事例をどのセッションに振り分けるかという企画の難しさが浮き彫りになった。質問・感想票を用いてインタラクティブな議論を行うために 1 会場あたりの人数の上限を維持しつつ、参加者数を増やす方法については、今後も模索していく予定である。

（藤井 [九州大]）

平成 29 年 10 月 27 日開催

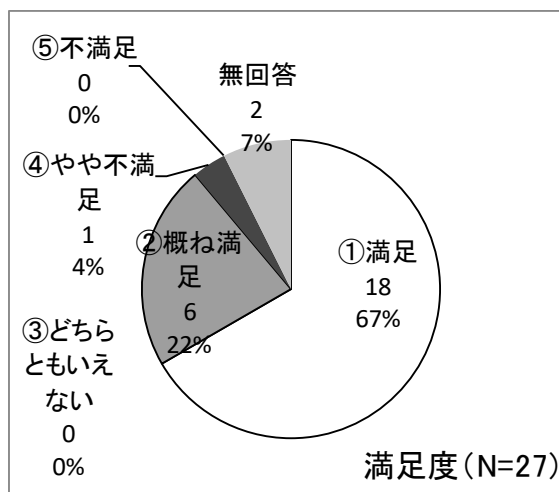


図 1 : セッション A (実践的)

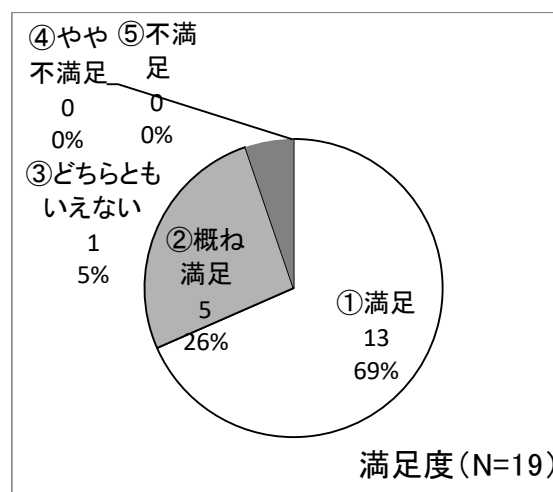


図 2 : セッション B (概念的)

アンケート結果の詳細 セッションA (実践的)

ID	属性	1. 得たこと	満足度	2. 満足度の理由	3. 今後取り扱ってほしいテーマ・内容	3. 意見・感想
1	未記入	共通分析セットの提供は非常に希望します。毎回山本さんの意見やアドバイスに感謝します。	-			共通分析セットは、大学基準協会や文科省などのデータを利用して使えるとありがたいのです。こうした情報を大学評価コンソーシアムに提供するのはもんだいでしょうか。高校生同様に、大学生も個人のポートフォリオを入力できるサーバがあるとよい。企業も大学もそれを利用できればよい。ここだけの話はカットしてよいので、音源だけでもYouTubeなどで制限公開してほしい。地方開催などで参加できないとき非常に残念です。
2	未記入		-			共通分析セットは目的に応じてどのデータをどのように分析すればよいのかのガイドラインとして非常に有用と思います。しかしあくまでガイドラインであるため、場合によってはフォーマット以外のデータの活用が求められることから、IRとしては分析者としての引き出しの多さが必要になるとも感じました。引き出しの多さという点から、渡邊先

ID	属性	1. 得たこと	満足度	2. 満足度の理由	3. 今後取り扱ってほしいテーマ・内容	3. 意見・感想
						生の学生 IR や第3者の視点の必要性についても考えるきっかけになりました。ありがとうございました。
3	国立	学術文献検索の IR の発表に期待してきましたが、発表時間も短く、期待していた内容の深化については残念でした。次回を期待しています。	④やや不満足	発表テーマが多岐にわたり、参加者にとっては興味あるテーマは満足度は上がると思うが、やはり期待するテーマにおいては15分は非常に短いと思いました。	研究評価・IR 学術文献検索DBの友好的な利用方法および各大学の事例について	
4	私立	研究 IR に関すること。学生が調査分析に関わることの可能性への気づき(以前から取り入れたかったのですが、自大学で実施するためのヒント)を得られたため	②概ね満足	今取り組んでいることのヒントを得られたため	①教員の研究業績の IR ②多変量解析の共通枠組み ③可視化ツールについて(自分で行いたい)	
5	私立	本学では分析結果の報告の差違、相手の読み取る力に大きな差があり、データや分析を嫌う教員を巻き込むためにも、山本先生、大野先生の事例にあった「パッと見て分かる」「1事例1グラフ」を心掛けてみようと思いました。	②概ね満足		学院 IR では財務や将来構想の検討を行う予定なのですが、大学 IR との連携を考えるように上司から指示がありました。学院 IR と大学 IR のれんけい事例があったら取り上げていただきたいです。	
6	私立	様々な IR について事例を聞かせていただき参考になりました。PROG と DP を関連づけた内容の解説(白石さん)、CP の整合性を測る IR (山本さん)など、今後本学でも取り組んでみたいと思いました。	②概ね満足	各事例の時間が短く少し慌ただしく感じましたが、質問をじっくり聞けたので、有意義でした。	学習成果の可視化について、もう少し具体的な事例など。	
7	国立	リサーチャー (ORCID) IR の話が興味深かった。ORCID を含めて本学でも調査研究を深めていきたい。	②概ね満足	具体的な事例によるレポートであったため。	教員業績の評価	
8	私立	概念的な内容ではイメージが湧きにくい	②概ね満足			

ID	属性	1. 得たこと	満足度	2. 満足度の理由	3. 今後取り扱ってほしいテーマ・内容	3. 意見・感想
		<p>践例を知ることです少しIRに対する理解が深まった。</p>	足			
9	未記入		②概ね満足	各大学のIR事例を教えていただく参考になりました。	<p>教学IRに特化したテーマで実施していただきたい。</p>	
10	私立	<p>学生を調査に参加させることで、分析結果の解釈に深みを持たせるという視点は、これまでの教学IRにはなかったもので、新鮮で勉強になりました。</p>	①満足	<p>内部質保証システムを構築するために、現在、評価指標の作成に取り組んでおり、明治大学の山本様の事例報告は、評価指標作成の指針として大変参考になりました。</p>	<p>内部質保証システムの評価指標作成について BIツールの導入について</p>	
11	私立	<p>PROG7の内容を初めて知りました。共通分析シートが作成されることが楽しみです。</p>	①満足	<p>各報告の時間が短く感じました。ありがとうございました。</p>		
12	私立	<p>学内データ分析に客観性をもたせるためのヒントを色々いただきました。学内データはどんどん充実してきているので、今後は外部データとどう組み合わせるかが大事だと思います。</p>	①満足	<p>大学に戻ったらすぐにも調べたり試したいことが多く大変面白かったです。</p>	<p>共通知 大学間での比較分析</p>	<p>ためになる情報の共有をありがとうございました。これを元に本学でも実施できることがあれば是非ごほうくしたいと思いました。</p>
13	私立	<p>明治大学の山本さんのご発表の事例は分かりやすく、自大学でもいつも分析を真似させていただいている。今回、それらを共通化した分析セットをつくらうという動きがあることを初めて知り、大いに期待が高まった。</p>	①満足	<p>配付資料のグラフはどれも持ち帰って試行錯誤するのに非常に役立つ。</p>	<p>九工大の山本先生の研究IRのご発表に関連して、本学のような文系大学の場合WoSに載っていない実績がない(分野、日本語、レベルが原因)。その場合、CiNiiを活用した研究IRはできないか。CiNiiはIFがなく、雑誌の実績もさまざまですが。</p>	<p>1日プログラムでもよいので、2会場ではなく、1会場で開催して欲しい。</p>
14	私立	<p>分析テンプレートになるお話が聞けてよかったです。</p>	①満足	<p>実践で活用できそうな情報でした。</p>		
15	私立	<p>CPの検証部分について考えを深められたこと</p>	①満足			
16	私立	<p>1つの問い(IRの目的、データ分析の工夫、レポートの留意事項など)について</p>	①満足	<p>共通知セットについて意見交換ができたこと</p>	<p>共通知の進捗レポート時の検定処理(マナーとして行っておくべき、</p>	<p>講師の皆さんに感謝します。</p>

ID	属性	1. 得たこと	満足度	2. 満足度の理由	3. 今後取り扱ってほしいテーマ・内容	3. 意見・感想
		て、それぞれの発表分野の視点(学習成果, 学生調査, 研究業績, データ分析など)から, 異なる回答, 豊富な示唆が得られたこと			検定の種類など) BI ツールによる分析 レポートの作成事例	
17	私立	丁度本学で課題になっているPROGについて, 活用法などのヒントをいただきました。 また, AP/CP/DPの可視化や具体的なグラフの作成など。 学生を調査者として実施する事例は, 本学の学生SD制度にも参考にさせていただきたいです(教職員だと見落とす問題・課題)。	①満足	テーマが興味深いものが多く, 早速実務で検討, トライさせていたきたいものがありました。	①経営 IR の取組み ②教員業績評価の IR	概念セッションでも受講したいものがありました。 時間配分や調整が大変かと思いますが, もう少し選択の自由があれば嬉しいです。 ありがとうございました。
18	私立	PROG をめぐって何をしたらよいのかということ。 教学マネジメントに資するIRの方法論。	①満足	多様な問題へのアプローチが見えました。	カリキュラム改革に IR はどのように資することができるか。	参考になりました。ありがとうございました。
19	私立	内部質保証のエビデンスをどのようにするかという課題を持っているが, 明治大学の山本さんが示されたアウトカムデータ以外の教務データの利用が参考になった。	①満足	具体的な情報を得ることができたから。	学習成果の評価 カリキュラム・マップ	
20	私立	発表はいずれも参考になった。IRの業務の範囲が広がっていることが分かった。	①満足	調査項目など気づかない点があり有意義だった。	①教員の業務分担 調査と中期計画との関係 ②教育業績評価, 教育力の測定 ③授業アンケートの 設問の効果測定	
21	私立	調査自体が学生になることで学生調査に厚みを増すことを目的とした事例が参考になりました。	①満足	テーマの通り実践的な事例を学ぶことができた。		単発の発表ではなく, 同じような課題や特定のテーマをもった大学で継続的に勉強や連携できる場があると参加したいと感じました。
22	国立	ORCIDの重要性 学生による学生調査の有効性 PROGの有効性の具	①満足	いつも新たな切り口をいじっていただけるので満足している。	統計数理研究所の アンケート調査	セッションが分かれているのは大変よいと思います。

ID	属性	1. 得たこと	満足度	2. 満足度の理由	3. 今後取り扱ってほしいテーマ・内容	3. 意見・感想
		体例				
23	国立	他大学の実際が取組が分かって同じような課題になっていたのが良かった。他大学の知り合いも増えて良かった。	①満足	どの報告もとても参考になりました。明大の山本先生、鳥大の大野先生のお話が本学の現状に対して参考になった。	①内部質保証の事例紹介 ②教員評価のなかで特に教育業績やマネジメントに関する評価指標/評価方法について	
24	国立	研究データの分析方法 教学 IR の試行的検討での IR 部門と学部との関連性 共通知による他大学比較の可能性	①満足	今課題となっていることが満載であったため	教学 IR の問題、課題、解決方法	
25	国立	様々な観点からご報告を聞くことができ、大変勉強になりました。学生 IR という考え方、教務データからの分析、共通知分析セットなど。	①満足	質疑応答の時間も大変有意義でした。		ありがとうございました。
26	国立	データ分析にあたっての統計的検定の取り扱いについて 世界大学ランキングの解釈の仕方(他大学との比較や自大学の過去データとの比較)	①満足	いつも大変勉強になります。各報告者の事例などもそうですが、コンソーシアムスタッフの山本さんと大野先生の総合討論も大変有意義な時間になりました。ありがとうございました。	見やすい(効果的な)グラフの作り方 (Excel によるグラフ)	2つのセッションに分けることで、いつも以上の方々に参加機会を提供するという方法は良かったと思います。コンソーシアムスタッフの方々のご尽力にはいつも感謝です。
27	未記入	データ分析、取り扱い、調査の取り組みと具体的に知ることができました。実際の業務レベルのお話も聞く機会ができ、とても参考になりました。	①満足	各大学様で具体的に取り組んでいる内容を知ることができました。		

アンケート結果の詳細 セッションB (概念的)

ID	属性	1. 得たこと	満足度	2. 満足度の理由	3. 今後取り扱ってほしいテーマ・内容	3. 意見・感想
1	私立		③どちらともいえない	概念時という名前の通りIRとは人物像, 必要とする知識, その背景にあるものという説明が多く, 少し予想した内容過ぎたかなと思いました。後半の質疑の中では, 少し掘り下げた内容となり興味深い話を伺うことができました。		参加者が少ないと難しいかも知れませんが, 設置別, 規模別の集まりがあっても良いかなと思いました。
2	私立	非常に有意義な会でした。本学はIR室は設けていませんが, 特に教員の方がIRを担当されているというお話は参考になりました。分析に対しての要望を会議体で報告する等本学でも取り入れたいと思います。	②概ね満足	概念的セッションでしたので4月に着任した私には少し困難でしたがお話は全て勉強になりました。		セッションA実践編を希望していましたが満席でした。
3	私立	急にIR担当になる職員が多い中, 改めて内部質保証や大学評価に関するお話がきっかけで勉強になりました。	②概ね満足	質疑応答は毎回さまざまなお話が聞けてありがたいです。		勉強になる部分もあったが, 室長がセッションAに参加したので, 概念編に参加したが, 事務職員としては実践編をうけてみたかったという感想であった。
4	私立	みなさまの考えていることが分かりました	②概ね満足	お話はよく分かりました。WSがあるとさらによかったと思います。	WS 学習成果の効果的なプレゼン方法(執行部を巻き込む方法)	
5	私立	IRの現実的な必要性について再認識できた。 TQMの考え方をIRに結び付けて考えることができるようになったと思う。	②概ね満足	資料を事前に読んでから参加できてよかった。	IR組織について(なぜ大学によって異なるのか) 原課を動かすにはどうしたらよいか。	

ID	属性	1. 得たこと	満足度	2. 満足度の理由	3. 今後取り扱ってほしいテーマ・内容	3. 意見・感想
6	国立	設置者の異なる大学教職員の方々の現場のあれこれを伺うことができて勉強になった。	②概ね満足	全ての質問にかいとういただけ他の方の質問を伺うことができ満足でしたが、時間がタイトでしたので。もう少し時間があれば他のオーディエンスの意見を聞くこともできたのかなと思います。	アジア諸国のIRの取り組み	いつか発表させていただきたいとひそかな願望をもっている。
7	未記入	初参加です。資料の連絡をいただけなかったようです。	②概ね満足	予想と違っていましたが、大学評価のルーツに触れられた気がしました。	この会にさんかしている人たちはどういふ方たちなのだろうと思ひながら聞いていました。評価のコンセプトを知らずに、せまく深く分析していたように気がします。評価とはわが身を振り返って良いところをPRし悪いところは改善する者と信じて日々努力しています。概念とか義務とは全く意識していませんでした。	おかしごちそうさまでした。
8	私立	自分の今の課題は分析した後にどのように継続的改善が行える意思決定支援に役立てるかである。丸山先生の発表は、まさに現状感じている課題に重なり参考になった	①満足	IRと評価業務を担当して専門部署を立ち上げているが実践的な面も概念的な面も両面から事例を聞くことができた。	IRと内部質保証の関係 中長期計画とIR	
9	私立	困っている課題が共通であることを実感できたため	①満足		学習成果の分析事例など	今後とも宜しくお願ひします。
10	私立	共有で抱える課題がわかった	①満足	自分も質問させていただいたが、活発な質疑応答があり参考になることが多かった。	大学評価とIR	
11	国立	丸山先生の経営学的な視点の分析をお聞きして新しい視点を知ることができ大変有意義でした。	①満足		報告者の皆様が研究、調査で収集されたデータについて、共有化、再利用化などを検討されてはいいかがでしょうか。	



ID	属性	1. 得たこと	満足度	2. 満足度の理由	3. 今後取り扱ってほしいテーマ・内容	3. 意見・感想
12	公立	皆様の発表もそうですが、Q&Aも大変勉強になりました。	①満足	質問票でのQ&Aであったので、発表内容を補完して聞きたいことを、聞きたいところまで質問できて大変有意義だった。	IR担当部署の自己評価(IR部署が役立っているということはどう分析すべきか)システム掲載データ数、アクセス数、分析依頼への回答数など。	
13	関係機関	当たり前のことですが、様々な学問分野の理論がIRや内部質保証で応用できることを実感した。	①満足	実践的な話が食傷気味だったので新鮮だった。需要は少ないかも知れないが、次回も継続して欲しい。	IR、内部質保証人材の育成方法(在野でやるしかないのでしょうか)	
14	公立	評価を担当しているので評価の歴史は大変参考になった。またTQMも参考になった。	①満足	質疑応答も含めて参考になりました。	学習成果を測る方法 DPが達成されているかを確認する方法	
15	その他	丸山先生の視点が新しく気づきが大きかった。畠田先生のTQM視点も気づきがあり書籍を読みたい。	①満足	概念的な点だけではなく実践的な点もあり興味深かった。		
16	関係機関	いろんな知識が身についた	①満足			
17	国立	AIMメソロドシーを用いての組織特長が参考になりました。TQMと内部質保証の話が参考になりました。	①満足	IR担当者の採用の状況、求められるスキルが参考になりました。認証評価の日米の比較が勉強になりました。	①経営・財務 IR:経緯層が行う意思決定に一定の成果があった事例 ②成績 IR:入試・成績・卒業(進路)の一連の動向 ③認証評価とIR	
18	未記入	IRに関するあらたな切り口を教えていただきました。質保証の議論の重要性を改めて感じました。	①満足			
19	未記入	具体的な現実感のある話がでて、Q&Aが大変良かったです。	①満足	Q&Aのやり方がよいですね。深い理解が得られます 同僚や近隣大学のIR関係者に進めておきます。	改革・改善への取り組み(すでに畠田先生がお話されていましたね)	

以上